# 経済同友

6

June
No.735


Contents


■特集
2011年度　新副代表幹事 座談会　02
**“内向き”の発想を打破し 世界市場で勝ち抜く日本へ**

■Close-up提言
政治・行政改革委員会 電子政府推進部会　報告書　11
部会長インタビュー　安延 申 部会長
**国民IDを導入し、停滞する電子政府構想を一刻も早く進展させるべし**

理科系人材問題検討PT　報告書　13
委員長インタビュー　篠塚 勝正 委員長
**産業界と教育界が一体となり子どもの理科的素養をはぐくむべき**

■Doyukai Report
第24回全国経済同友会セミナー　15
「緊急日本復興会議」

■Seminar
第1171回会員セミナー　17
「放射能汚染と食品の安全」
唐木 英明 氏
（日本学術会議 副会長／内閣府食品安全委員会 専門委員）

第1173回会員セミナー　18
「政治のリーダーシップと危機管理」
御厨 貴 氏
（東日本大震災復興構想会議 議長代理／東京大学 教授）

■Column
巻頭言　北山禎介　01
「ミルケン会議に参加して」

リレートーク　安田育生　19
「加速化するパラダイム・シフトと柔構造」

コペンハーゲン通信　20
「デンマークの社会保障制度改革の争点とは?」

私の思い出写真館　林 明夫　22
「出張授業」

新入会員紹介　21


今月の表紙：世界の文様シリーズ

【ウズベキスタン・スザニ柄】

スザニとは、この国の手刺繍によるテキスタイルのこと。スザニとは針仕事を意味し、機械生産とは違った温かみのあるデザインです。

## 巻頭言


副代表幹事
教育問題委員会 委員長
**北山 禎介**
三井住友銀行
取締役会長

# 「ミルケン会議に参加して」

ゴールデンウィークにL.A.で開催された「ミルケン・インスティテュート・グローバル・コンファレンス」に出席した。これは米国のシンクタンク、ミルケン研究所が年１回開いている米国版のダボス会議といったもので、世界各国から経済界・学界・官界など総計3,000人超が参加する大規模なイベントである。

経済同友会としては数年前に小島邦夫前専務理事が出席、それ以来誰も行っていないので参加してくれないか、ということで小生が出席した。

われわれのパネル・ディスカッションのテーマは「Recovery in Japan」。これは東日本大震災からの復興と、もっと中長期的な再興、すなわち、80年代までの世界をリードした日本の力の復興、の両方を意味した掛詞である。モデレーターがABU DHABI INVESTMENT COUNCILのCIOのM.CUTIS氏、パネラーが元財務相の尾身幸次氏、元参院議員の田村耕太郎氏、南カリフォルニア大学のR.DEKLE氏、ベンチャー育成の㈱サンブリッジのA.MINER会長と小生の５人。

パネル・ディスカッションの概要としては、今回の大震災により、短期的には直接的被害・サプライチェーン・電力供給・自粛ムードの４点がネガティブに作用するが、中期的には復興需要に伴う成長が見込まれるとおおむね一致。むしろ課題はグローバル化への対応、少子・高齢化問題、財政の健全化など、ここ10年以上議論されている日本の構造問題とも言える中長期的なテーマが克服できるかが焦点となった。これらの根本問題に対しては、海外の成長を捕捉する輸出主導型、すなわち80年代までのモデルをさらに進化させ、国内でも変革を促していくモデルを早く構築する必要がある。そのためにも今般の震災を梃子に「やらざるを得ない」というギアチェンジを、官民挙げて決断していくことが肝要、ということになった。

結論としては既に何度も言い尽くされたことなので、小生からは、日本の「実行力」の必要性を特に主張した。

今回の出席で感じたことは、①日本への期待がまだ大きく、これに応えていくためには、実際の行動で成果を示し続けていくしかない、②かかる大規模な会議で日本発のオピニオンを積極的に発信していく必要性がある、の２点である。これらは共に、長谷川新代表幹事の下、経済同友会の「行動方針」そのものであり、あらためてその重要性を認識した。